まんのう町教育委員会だより

爽風（そうふう）

子どもの健やかな成長を願って

Vol. 57
令和8年【2026】
10月1日 発行



特集　集団宿泊学習で学ぶ

Contents

P.7　シリーズ「声」
P.8～9　園・学校ウォッチング　満濃中学校・長炭こども園
P.10　熱闘　暑さに負けず
P.11　ホッとニュース

集団宿泊学習で学ぶ!



小・中学生の頃、集団宿泊学習でキャンプファイヤー、野外炊飯などの活動をしたことを覚えておられる方もいるのではないでしょうか。
集団宿泊学習は、小・中学校の教育課程の中に位置づけられた学習活動の一つです。
今回は、集団宿泊学習が　小・中学校の教育活動にどのように位置づけられているのか、子どもたちは活動の中で何を学んでいるのかなどを見ていきます。

長炭小学校（令和7年度）

参考・引用　小学校・中学校学習指導要領（昭和33・34年、昭和43・44年、平成元年、平成29年）

集団宿泊学習に関する変遷

始まり
体力と忍耐力を鍛えることを目的
→ 明治19年　東京師範学校（現在の筑波大学）が11泊12日で千葉県の銚子まで、260kmを歩く長途遠足を実施。（初めての修学旅行）

戦前
結核などの病気を防ぎ、体力・健康づくりを目的
→ 2～4週間の長期間にわたり、海や山などの自然の中で過ごし、栄養管理や衛生指導をする林間学校などを実施する学校が増える。

昭和33年
学習指導要領が改定され、学校の教育課程が、教科、道徳、特別教育活動、学校行事等の4つの領域で構成されることになり、それらの全てが必修化された。
→ 修学旅行や遠足などの学校行事の一つとして、集団宿泊学習を実施。

昭和30年代後半以降
「体験」が子どもの成長に効果的だと科学的に証明され、子どもたちが社会性を育む体験や、自然の中での直接的な体験をすることを目的
→ 昭和45年に、国の補助が始まり、国立や県立の自然体験施設が全国に設置される。自ら火を起こしてカレーを作ったり、キャンプファイヤーで絆を深めたりする体験を実施。

平成元年
学習指導要領が改訂され、集団生活への適応、自然とのふれあいなどの体験的な活動を一層充実する観点から、集団宿泊活動の位置づけや内容の取扱いが明確になった。
→ 集団宿泊学習を、特別活動の学校行事の「遠足（中学校は旅行）・集団宿泊的行事」として実施。

現行の学習指導要領では

学校行事の遠足（中学校は旅行）・集団宿泊的行事の内容として、自然の中での集団宿泊活動などの（小学校のみ）平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること、とされています。

これをもとに、小学校では、5年生が「林間学習」「臨海学習」などとして、中学校では、1～2年生が「宿泊学習」「自然教室」などとして行われています。小学6年生と中学3年生は、修学旅行を行っています。

具体的な活動は、次からのページをご覧ください。

育まれる力

個人　自立心・自主性　自己管理能力　自己理解　達成感　道徳心　感謝の心　など

集団　協力・協調性　チームワーク　思いやり　共感する心　コミュニケーション能力　など

社会　公衆道徳（マナー）　責任感　公共の意識　社会性の土台　など

活動後の児童の感想より

- 野外炊事では、みんなで協力して作ったカレーライスがおいしかったのでうれしかったです。
- いかだを作るのは友だちと協力することが必要でした。はじめは、いかだがなかなか進まなかったけれど、だんだん息があって速く進みました。一番に戻ることができてうれしかったです。
- カレー作りでは、調理の難しさや洗い物の大変さから、毎日してくれる親へのありがとうの気持ちがわいてきました。感謝の気持ちを伝えるためにお手伝いをして親が楽できるようにしたいと思います。
- カレー作りでは、かまど係で責任をもって仕事をしました。自分の仕事に責任を持つことが大切だと学びました。

小学校

目的

豊かな自然の中で野外体験学習など、日常の学校生活ではできない活動に取り組むことを通して、自主的な態度と行動力を養う。
集団生活を通して、お互いのよさを認め合い、協力することの大切さを学ぶ。など

宿泊場所・・・各校ごとに決定
- 県立屋島少年自然の家
- 国営讃岐まんのう公園　など









活動日程例

	1日目	2日目
午前	出発式　学校発 入所式 昼食	起床　朝のつどい 朝食 体験活動
午後	体験活動 夕食 キャンプファイヤー 入浴 就寝	昼食 退所式 学校着　解散式

















中学校

県立五色台少年自然センター





令和7年度　学年目標

With friends

～みんなで作る　楽しい　認め合う宿泊学習～

目的

五色台の豊かな自然を感じながら、集団生活や体験活動を通して、豊かな人間性やたくましく生きる力、規律を守ることの大切さ、先を見通した判断力を養う。

活動日程

	1日目	2日目	3日目
午前	出発式　学校発 入所式 昼食	起床　朝のつどい 朝食 野外炊事 昼食	起床　朝のつどい 朝食 野外活動 昼食
午後	体験活動 夕食 夕べのつどい 入浴 天体観測 就寝	体験活動 夕食 夕べのつどい キャンドルサービス 入浴 就寝	奉仕活動 退所式 学校着　帰校式













＜香川県の集団宿泊学習＞

昭和45年に、県内すべての中学２年生を対象に「五色台教育」として始められて以来、50年以上にわたって実施され50万人を超える生徒が参加し、全国でも特色ある教育活動の一つとなっています。

現在は、県立五色台少年自然センターと県立屋島少年自然の家を利用して、自然の中での体験活動や集団活動を通して、豊かな人間性や健康、体力、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育て、望ましい人間関係をつくることをねらいに、主に中学１年生を対象に2泊3日の日程で実施しています。

生徒がそれぞれの興味・関心などに応じ学習を選択する活動や、生徒自身の計画による活動など、様々な体験を重視した活動が行われています。（香川県教育委員会ホームページより）

こども園

こども園では、宿泊を伴う活動ではありませんが、保育時間を延長して行う行事があります。活動の名称や内容は園によって様々で、お楽しみ保育や夜まで保育、納涼まつりなどです。こども園では、行事を通して、子どもたちが様々な体験をして学んでいます。

お楽しみ保育や夜まで保育では、5歳児が園外に出かけ、自分で買い物をするなど、普段はできない体験をしています。

納涼まつりは、園内で実施していますが、普段と異なり甚平や浴衣を着て夜店遊びや盆踊りなど日本の伝統文化に触れる体験をしています。

夜まで保育

8:30	開会式
8:45	園外保育
15:00	活動
16:00	調理体験
17:00	会食
17:50	映画会
19:00	閉会式

園外保育で見学や様々な体験を











お楽しみ保育

9:15	園外保育
14:00	おやつ作り 流しそうめん
18:00	お化け屋敷







納涼まつり

18:00	開会
	歌
	盆踊り
	夜店体験
	花火
19:15	閉会







これらの行事は保護者の協力もあり、参加した園児も大人も楽しめる内容となっています。

シリーズ『声』

第41回　現職教育主任として

各小・中学校には、現職教育主任という校内の教員の研修計画を立て、指導や助言をする役割を担う教員がいます。授業などの専門性を高めるための校内研修を企画・運営し、他の教員をサポートするのが主な仕事です。今回は、現職教育主任の先生方の声を聞きました。

「共に学びを創る」を楽しむ



濁濃南小学校に赴任して、半年が経ちました。まんのう町の学校に勤めるのは初めてなので、地域が変わるとこんなにも違いがあるのだなと、日々自分自身をアップデートしている感覚です。

そんな中、どの地域の学校でも変わらないことは「授業」です。1学期、心に残っている授業があります。ある算数の授業で、普段はあまり積極的に発表しない子が手を挙げました。一生懸命に分数のわり算の計算の仕方を説明するその子の声を、全員が真剣に聞いています。その子が言葉に詰まったときには、周りの子が自然とフォローする言葉で支えます。説明が終わった瞬間、拍手が起こりました。教室が温かい雰囲気に包まれました。その頑張りに感化され、他の子たちも自分から手を挙げて発表するようになりました。みんなで学んでいるからこそ互いに影響しあい伸びていけるのだなと感じました。

私は、現職教育主任として、先生方と一緒に授業づくりを楽しみたいと考えています。授業の中で、「なぜだろう」と真剣に考える姿、友だちに分かってもらおうと必死に説明する姿、「分かった」と目を輝かせる姿。そんな子どもの姿をつくるために、教師がどんな仕掛けを行うのか。本校の現職教育のテーマである「共に学びを創る」に向けて、教師も共に学び合いながら、授業づくりを行っているところです。

現職教育の時間には、グループ構成や交流の仕方を工夫し、意見が言いやすい環境づくりを心掛けています。教員としての経験年数に関わらず、気軽に疑問やアイデアを出し合える、貴重な時間になってほしいと願っています。

このように、共に授業づくりを楽しむ教師の姿勢は、自身の指導力を高めることはもちろん、子どもにとっても楽しい授業につながると信じています。

濁濃南小学校　教諭　中野　衣梨

子どもたちの問いを育む授業をめざして

本校では、「主体的に学び、友だちとともに学びを深める子どもの育成」を研究主題に掲げ、生活科・総合的な学習の時間を中心に授業づくりを進めています。

現職教育主任として私が大切にしていることは、教員が学び続ける学校であることです。授業は一人でつくるものではなく、仲間と考え、支え合いながら磨き上げていくものです。本年度も、1・2年生の生活科「木育」3・4・5・6年生の総合的な学習の時間「そばづくり」を、それぞれの教員が協力して構想し、一緒に授業を行い、子どもの姿をもとに授業改善を重ねています。

こうした取り組みの中で、教員は、子どもたちが自分で考えたくなる場面を工夫し、考える時間はじっくり待ち、その考えを友だちにつないでいくことを大切にしています。

例えば「そばづくり」の学習では、昨年度まで地域の方が整えてくださっていた畑を、本年度は、雑草が生い茂ったまま子どもたちに示しました。子どもたちは「自分たちで何とかしよう」と草を抜き始めました。しかし、その大変さに、これまでの地域の方の協力がいかに大きかったのかを実感しました。

また、初めてそばづくりに取り組む3年生の疑問に答えようとした6年生も、分かっていたつもりでも、地域の方に教えていただいていたことが多かったと、気付きました。子どもたちは、自ら問いをもち、考え、地域の方々の支えに感謝しながら学びを深めています。

現職教育は、特別な研修だけを指すものではありません。子どもの姿から学び、教員同士が語り合い、授業をよりよいものへと改善し続けることが、教員の指導力を高めます。そして、その積み重ねが、主体的に学び、仲間とともに成長する子どもたちを育むことにつながると信じています。



琴南小学校　教諭　大谷　美佳

園・学校ウォッチング

本校では、地域を子どもたちにとって大切な学びの場だと考えています。
学校の中だけでは得られない経験を通して、人と関わる力や思いやり、責任感を育むことを目指しています。
まんのう町には、子どもたちを温かく見守り、応援してくださる方がたくさんいます。その温かなつながりの中で、生徒たちは地域の一員としてさまざまなボランティア活動に参加して成長しています。

ボランティアが育む自信と成長

昨年度は、延べ100名を超える生徒が地域のボランティア活動に参加しました。
図書館では小学生の読書推進を主な目的として、本の貸し出しや返却、新着図書の整理、読み聞かせ、おすすめ本の紹介づくりなどを行いました。また、生徒たちが、図書館は本の貸し出しをするだけの場所ではなく、地域の人々が集い、学びを深める交流の場であることを自覚して活動しました。生徒たちは、地域の役に立つ喜びと、自分自身の成長を実感できることに、大きなやりがいを感じることができています。
また、高齢者施設では社会福祉ボランティアとして、利用者の方との交流や介護体験をしました。ベッドからの移動体験や、車いすでの乗車体験、入浴体験など、施設職員の方々と連携しながら、利用者の方が安心して、楽しく過ごせるよう、きめ細やかな気遣いを心がけて活動しました。利用者一人ひとりの気持ちに寄り添うことの大切さを実感する貴重な機会となりました。
地域の方から「ありがとう」「助かったよ」と声をかけていただくことは、生徒たちにとって大きな励みとなりました。自分の行動が誰かの役に立ったという実感は、自信や次の挑戦への意欲につながっています。


図書館で読み聞かせの絵本を選ぶ


車いすでの乗車体験

地域とともに育つ子どもたち

満濃中学校



地域とのつながりを実感する活動

公民館祭りでは、町内7か所の会場で屋台での接客や小学生向けワークショップの運営を担当しました。祭り前日には、テントを立てたり、荷物を運んだり、来てくれる人のことを思い準備に励んだ生徒たちの表情は輝いていました。
また、公民館の敬老会では会場案内や贈り物の準備を行い、入口での丁寧な受付の様子をほめていただきました。マナーアップリーダーズ※が琴平警察署員と協力して特殊詐欺への注意を呼びかける劇を披露し、地域の方々から温かい声援をいただきました。活動を通して、人と人とのつながりの大切さを学ぶ機会となっています。
毎年、長尾会館で開催されるふれあいじんけんフェスタでは、餅つきや屋台の準備に参加し、地域の方々と協力しながら交流を深めています。幅広い世代との関わりを積み重ねることで、生徒たちは地域には多くの人々が支え合いながら暮らしていることを実感し、自分たちも地域社会の一員であるという意識が高まっています。
※マナーアップリーダーズ：ボランティアで非行防止や、マナーアップに関する啓発活動を企画し、地域や関係機関などの方々とともに活動する県内の中学生。



劇をしたマナーアップリーダーズ



特殊詐欺への注意を呼び掛ける劇

ボランティア活動は、誰かのために力を尽くすだけでなく、自分自身の成長にもつながる貴重な機会です。地域の方々は、生徒たちを温かく迎え、たくさんの称賛や励ましの言葉をかけてくれます。これらの言葉は、生徒たちにとって大きな励みとなり、自分も役に立てたという喜びや自信につながっています。地域の方々には心より感謝しています。
これからも地域とのつながりを大切にしながら、生徒一人ひとりの心に「自分も地域の一員である」という気持ちを育み、ふるさとへの愛着や誇りを深めていけるよう取り組んでいきます。


公民館祭りや、じんけんフェスタで活躍する生徒たち

温かさに包まれて育つ子どもたち

～家庭、地域、園が協働しながら～

長炭こども園

豊かな自然に囲まれた長炭こども園。穏やかでやさしい空気の中、子どもたちは伸び伸びと過ごしています。子どもたちに関わる大人は、地域の子どもを大切に見守ってくれています。本園の教育・保育は、地域の温かなまなざしに支えられていることを実感しています。

温かい地域の中で

こども園のすぐ前にある公民館。散歩に出かけていくとき、「さんぽに行っきょんかー」「気をつけて行けよ」と館長が声を掛けてくれます。
また、交通立哨に立ち、いつも地域の安全に気を配り、私たちに安心感を与えてくれている駐在所のお巡りさん。4月の交通安全教室では、横断歩道や散歩コースの道路を渡るとき、適切に親子を誘導してくれました。
子どもたちにとって地域の方々は、いつもそこにいて大きな安心感をあたえてくれます。何気ない日常の中に温かい空気の流れが感じられます。


親子交通安全教室

みんなの「夕涼み会」に

夏の大きなイベント「夕涼み会」では、早い時期から役員が動き始め、夜店の景品の選定、買い出し、夜店コーナーの見直し等々、準備が進んでいきました。
当日、始まりの放送を聞いた子どもたちは、チケットを手に「この夜店に一番に行く！」と、駆け出して行ったり、「次はあれに行ってみよう」と、家族や友だちと一緒に夜店を回ったり、目を輝かせて夜店を楽しんでいました。


「ニンジンを収穫したよ」


「調理員さんお願いします」

温かい見守りを受けて

園の環境を整えている用務員も、大切な見守り手の一人です。子どもたちの姿をおおらかに見守りつつ、危険な場面では「あぶないぞ」「さわったらいかん。虫もおる」などと、声を掛けてくれます。心が温まる関わりが日常にあふれています。
7月、昨年度に種をまき育てていたニンジンを収穫しました。「簡引いたらええんちゃう？」「しっかり水やりしたら大きくなるぞ」と、子どもや職員が自ら行動できるように声を掛けてくれました。「もう収穫できるで」の声掛けで喜んで収穫した子どもたち。「ニンジン、どうやって食べようかな～」と給食室に届けると、調理員がニンジンスティックを作ってくれました。「あまい！」と素材の味をしっかりと味わい満足そうな子どもたちの表情がとても印象的でした。子どもたちのためにすぐに行動してくれる調理員も大切な見守り手です。


「屋台楽しいな」

また、今年は保護者全員が、夜店コーナーの当番を担当してくれました。家族みんなで参加できる、子どもを預け合うことができる関係性があるからこその取り組みだと思います。
子どもたちのために、みんなが楽しめるように、という思いで協力し合う姿は、自分が育った地域での大切な経験として子どもたちの心に残ると思います。子どもを真ん中にした保護者の一体感も大きな安心につながっています。



教職員のチームワークを生かして

自分自身の成長にもつながる貴重な機会です。地域の方々は、生徒たちを温かく迎え、たくさんの称賛や励ましの言葉をかけてくれます。これらの言葉は、生徒たちにとって大きな励みとなり、自分も役に立てたという喜びや自信につながっています。地域の方々には心より感謝しています。
これからも地域とのつながりを大切にしながら、生徒一人ひとりの心に「自分も地域の一員である」という気持ちを育み、ふるさとへの愛着や誇りを深めていけるよう取り組んでいきます。

お楽しみ保育の後は、お店やさんごっこ、お化け屋敷ごっこへと遊びが広がり、異年齢児が触れ合って遊ぶ場になっていきました。
教職員間の居心地のいい空気感、チームワークのよさは当園の大きな強みです。温かい職員間のやり取りは、子どもたちにとってよりよい人的環境であると感じています。
温かさに包まれて過ごす中で、しなやかなたくましさを身に付けた子どもの育成をめざしています。伸びようとする子どもの姿を信じ、必要な援助をしながら、同じ思いをもって子どもに関わっていきたいと思います。


「チョコバナナください」

熱闘！暑さに負けず！！ 満濃中学校

■郡市総体（団体）

部活名		結果
剣道	男子	優勝
	女子	優勝
軟式野球		準優勝
サッカー		優勝
バレーボール	男子	優勝
	女子	優勝
卓球	女子	準優勝
ソフトテニス	男子	準優勝
	女子	準優勝
バスケットボール	男子	準優勝
	女子	3位

郡市大会の結果は、紙面の都合で、3位までを掲載しました。

■郡市総体（個人）

部活名			結果	
剣道	男子	優勝	松岡　勇志
		準優勝	横内　徹成
		3位	藤井　惇平
			中野　湊
	女子	優勝	北川　心都
		準優勝	下岡　希史
		3位	大喜多紗英
			小嶺　志來
卓球	男子ダブルス	準優勝	平田　樹 那須　日向
	女子ダブルス	優勝	大西　七瑚 上原　ゆめ
ソフトテニス	男子ダブルス	3位	谷江　泰晟※ 他校生※
	女子ダブルス	準優勝	山田　望愛※ 多田莉々愛※
		3位	大石　彩乃※ 他校生※
水泳	男子 50m自由形	優勝	山地　悠仁
	男子 100m自由形	優勝	東條　智仁
	男子 200m平泳ぎ	優勝	山地　悠仁
	男子 400m個人メドレー	優勝	石崎　慶祐
	女子 50m自由形	優勝	岩倉　三佳
	女子 100m自由形	優勝	岩倉　三佳

※UTC：仲多度・善通寺地区の生徒を中心に構成されたソフトテニスのクラブチーム

■香川県なぎなた選手権大会（個人）

種目	結果	
演技	準優勝	中野莉乃・北山紗千花
	3位	篠原　桜・増田栞奈
		青野希子・弓削奏來

■県総体（団体）

部活名		結果
剣道	男子	優勝
	女子	優勝





祝
剣道男子
全国大会出場（3年連続）
剣道女子
全国大会出場（初）

■県総体（個人）

部活名	結果	
剣道	松岡　勇志	優勝
	藤井　惇平	3位

■四国総体（団体）

部活名		結果
剣道	男子	優勝
	女子	準優勝

■四国総体（個人）

部活名	結果	
剣道	松岡　勇志	優勝

■全日本吹奏楽コンクール（香川県大会）

部活名	結果
吹奏楽	A部門　銅賞

















映像研修

教育研究所全体研修会（7.30）

「みんなの学校」　～大空は明日へ続く～



すべての子どもが同じ教室で一緒に学ぶ大阪市立大空小学校の1年間を追ったドキュメンタリー映画です。教職員、保護者、地域住民、子どもたちが一体となって「みんながつくる、みんなの学校」をめざす姿が描かれています。
（2015年公開：監督　真鍋俊永）

映画に校長として出演している木村泰子先生は、平成30年に来町され、町内の先生方が講演を聴いています。

「学力向上」の基盤として、子どもが安心して挑戦でき、子ども自らが学ぼうと思える学級・授業づくりが欠かせません。映画『みんなの学校』を鑑賞し、大空小学校木村泰子校長を始め、教職員等のリアルな挑戦の様子から、「一人ひとりを絶対に見捨てない」「子どもの可能性を信じて任せる」という子どもを主語にした教師の関わり方について、先生方に考えていただきたいと、小・中学校の教職員を対象に研修を実施しました。

映画を視聴後、近くの教員同士で学んだことや印象に残ったことなどについて意見交換を行い、今後自身が取り組みたいことについて確認しました。

夏季休業の終わりに、それぞれの先生方が確認したことを見直し、2学期からの取り組みに生かしていきます。


熱心な意見交換

映画を視聴した先生方の感想

「分かったつもりになるのが一番危険」という言葉が心に残りました。先入観や思い込みで子どもたちと接するのではなく、目の前の子どもの言葉や思いに真摯に接していきたいと思います。

「子どものありのままを受け止める」「その子が伸びるように関わり、その伸びを評価する」「周りの子どもを育てていく」を意識して実践していきたいと思います。

支援を必要とする子どもをありのまま受け止め支援するとともに、周りの子どもたちがお互いの個性や特性を理解できるように支援しなければならないと思いました。

そして、支援を必要とする子どもも、学級を安心できる場と認識できるようにしたいと思います。

問題行動を起こした子どもが反省している言葉を聞いた時、「この一瞬は本物。その点と点をどうつないでいくかが大切」と校長先生がおっしゃっていたのが印象に残りました。本気で思ったその点をつないで線にしてあげるように支援するのが教師だと思いました。

第2回 研究員会を開催

こども園部会（7.21）



テーマ
やってみたいを
やってみよう！
～園と家庭と地域の
連携・協働をめざして～

研究員を中心に、各園で1学期に取り組んだ事例について情報交換をしました。その後、グループごとに今後の取り組みについて協議しました。指導者の香川大学教育学部松井剛太先生に各園の取り組みについて具体的な助言をいただき、今後の方向性を明確にしました。

小・中学校部会（7.31）

研究員が、各学校で1学期に取り組んだ事例について情報交換をしました。その後、授業動画を見て、効果的な自己表現の場の充実を図るための方策について協議しました。

テーマ
主体的・対話的で
深い学び
～自己表現する場の
充実～





編集後記

蛇口をひねれば温かいお湯が出て、スマホをタップすれば欲しいものが届く。私たちは、今「便利で快適な時代」を生きています。そんな時代に、あえて冷たい水で野菜を洗い、煙に目をこすりながら薪で火を起こしカレーを作り、初めての場所で大勢と寝食を共にする行事があります。学校で行われる「集団宿泊学習」です。一見すると、時代遅れで非効率な活動に見えるかもしれません。しかし、デジタル社会だからこそ、集団宿泊学習が子どもたちにもたらす「不便益（不便だからこそ得られる価値）」が、輝きを増しています。

1 検索できないトラブルが、生きる力を呼び覚ます

今の生活は、失敗や予測不可能を徹底的に排除してくれています。しかし、集団宿泊学習の現場は想定外の連続です。薪が湿っていて火がつかない。雨が降って予定していた活動ができない。友だちと意見が合わず、部屋の片付けが進まない。これらはインターネットで検索しても、AIに聞いても解決できません。目の前の現実と向き合い「じゃあ、どうする？」と自分の頭で考え、仲間と話し合うしかありません。この「予定通りにいかない経験」こそが、これからの予測困難な社会を生き抜く「レジリエンス（折れない心）」と「問題解決能力」を育てます。

2 スマホを閉じ、身体のセンサーを全開にする

(株)NTTモバイル社会研究所の調査によると、学習以外の1日のスマホの使用時間は、小学校高学年で約70分、中学生で約125分となっています。子どもたちの日常は、スマホの向こうにある誰かが作ったコンテンツで溢れています。しかし、夜、暗闇の中で聴く虫の声や風の音、満天の星空、自分たちで作った少し焦げたカレーの匂いは、画面越しでは絶対に味わえません。五感をフルに使うリアルな体験は、子どもたちの感性を刺激し、言葉にできない深い感動や生きていく自信を心に刻み込みます。

3 タイパの対極にある、豊かな人間関係

時間短縮や効率の良さ(タイパ)が美徳とされる現代ですが、人間関係だけは効率化できません。夜、テレビもゲームもスマホもない静かな部屋で、布団を並べて何気ないおしゃべりをする。ただそれだけの時間が、驚くほど友だちとの距離を縮めます。お互いに助け合う中で、「人は一人では生きていけない」という社会性の原点を、理屈ではなく肌で学びます。

集団宿泊学習は、単なる「楽しい思い出作り」のイベントではありません。便利さと引き換えに、私たちが日常で見失いがちな「自立心」「協調性」「感謝の心」を、わずか数日の中で爆発的に呼び覚ます最強の成長システムです。不便を乗り越え、ひと回りもふた回りもたくましい顔つきになって帰ってくる子どもたち。彼らが持ち帰る本当のお土産は、カバンの中の荷物ではなく、生涯を支える「生きる力の種」なのではないでしょうか。

表紙絵：上田　涼楓（満濃中学校美術部1年）

次号予告（12月1日発行）

特　集　学校・園の「食育」

園・学校ウォッチング　高穂小学校・四条こども園

発行責任者：まんのう町教育委員会　〒769-0313　香川県仲多度郡まんのう町生間415番地1
TEL (0877) 89−7100　FAX (0877) 89−8100